

# 会議結果報告書

平成27年 6月 5日

会議の名称	第2回志木市総合振興計画審議会
開催日時	平成27年5月21日(木) 14時00分～15時15分
開催場所	市役所4階 全員協議会室
出席委員	西川 和人会長、木下 良美副会長、河野 芳徳委員、 吉川 義郎委員、金子 幸一委員、大木 勝臣委員、 為井 俊充委員、持田 直人委員、金谷 慶國委員、 近藤 訓委員、清水 一敏委員、長島 とも子委員、 長谷 美幸委員 (計13人)
欠席委員	神山 邦明委員、渡邊 一俊委員、浮田 朋美委員、 松浦 優子委員 (計4人)
説明員職氏名	政策推進課 松永参事兼課長、外立主幹、伴主任 ランドブレイン株式会社 加藤 敬昭、石村 壽浩 (計4人)
議 題	1 開会 2 諮問 3 審議事項 (1) 志木市将来ビジョン(第五次志木市総合振興計画 将来構想)素案について 4 その他 5 閉会
結 果	議題2については、受理された。 議題3(1)の審議事項について、事務局から審議会委員に説明し、審議及び質疑応答を行った。 (傍聴者1人)
事務局職員	松永企画部参事兼政策推進課長、外立政策推進課主幹、 伴政策推進課主任、星野政策推進課主任、吉田政策推進課主事

審議内容の記録（審議経過、結論等）

1 開会

- ・ 議事に入る前に、傍聴者の有無について確認を行った。  
→傍聴希望者あり。
- ・ 会議を公開としてよいか諮る。  
→全会一致で承認、傍聴者が入室する。

2 諮問

- ・ 諮問事項「志木市将来ビジョン（第五次志木市総合振興計画 将来構想）素案」  
外立政策推進課主幹より諮問事項について説明  
→全会一致で受理。

3 審議事項

(1) 志木市将来ビジョン（第五次志木市総合振興計画 将来構想）素案について

外立政策推進課主幹より志木市将来ビジョン（第五次志木市総合振興計画 将来構想）素案について説明後、質疑応答を行った。

(委員)

「市民力」という言葉は、どのような定義付けがされているのか。

(説明員)

志木市は、全国的に見てもコンパクトな地域で、人口密度も高い市である。その中で、数多くの市民が暮らしている。その市民一人ひとりの知識や経験といった特性を結集させて、地域課題の解決に取り組もうとする力を「市民力」と考えている。

(委員)

「市民力」について、もう少し端的に説明することができないか。

(説明員)

端的に申し上げると、市民一人ひとりの力ということになる。

(委員)

「市民力」という言葉からは、行政が市民に対してボランティア等で力を貸してほしいと言っているように感じる。まず、その姿勢がそもそも良いことなのかについて議論があるのではないか。また、積極的にボランティア等に

関わりたいと考えていない市民に対して、「市民力」を強く推進し過ぎると、逆に重く捉えて敬遠してしまうのではないか。「市民力」と言って、何をどこまで市民に求めているのか。

この10年間で、どのような課題を「市民力」によって解決しようと考えているのか。

(委員)

近年、「市民力」という言葉が使われるようになってきているが、ニュアンス以上の認識はできていない。この言葉で、どの程度のことを市民に求めているのかはあいまいではないか。また、人それぞれ受け止め方が違ってくると感じるので各委員の意見を伺いたい。

(委員)

特に若い世代の市民は、「市民力」という言葉を強く推進し過ぎると引いてしまうのではないか。

(委員)

高齢者の方々は、知識や経験が豊富で元気である。それらを活かす場所を求めている。その活躍する場所が「市民力」なのではないか。高齢者だけでなく、若い世代も巻き込んで活力を生み出すことが理想的ではある。

(委員)

志木市には、都内で勤務をされていて様々なスキルを蓄積されている方や、市内で暮らしていて様々な才能をもっている方が混在している地域であるから、それが力となっていくのではないか。

(委員)

高齢者の方々を活かすための施策は徐々に浸透してきている。又、市内の各種団体は、やはり高齢者の方々が中心となっている。そこに、いかに青年世代を巻き込んでいくかが課題である。青年世代がまちづくりに関わっていきたいと自発的に思えるような施策を考えることが重要ではないか。

(委員)

「市民力」という言葉を、志木市や自分が居住している地域を愛する気持ちと置き換えれば分かりやすくなるのではないか。市民一人ひとりが、自分が住んでいる地域を良くしたいという気持ちを持っているはずである。それらを結集することで「市民力」になっていくのではないか。

(委員)

志木市には、様々な経験をされてきた方々がたくさんいる。だが、その受け

皿がない。その受け皿をつくっていくことが大事ではないか。

(委員)

「市民力」とは、コミュニティづくりではないか。例えば、ラジオ体操に参加することで顔を合わせて、あいさつができる人が増えてくる。それにより、暮らしやすい地域となる。このように、共同体意識が生まれれば、必然的に暮らしやすくなる。そういう意味での「市民力」と捉えている。

(委員)

このビジョンでは、市外から人を呼び込んで定住させることも計画していると認識している。だから、志木市に住んでいる方々だけではなく、企業や学校をはじめ、志木市に関わっている方々も巻き込んでのまちづくりが必要である。そのメッセージも「市民力」という言葉に含めて発信すべきではないか。

(委員)

重点的に取り組むべき施策が 5 点挙げられているが、その問題意識は共有できているのか。アンケート結果と実際の問題意識が合致しているか。

(委員)

アンケート調査はいつ実施したのか。

(説明員)

このアンケート調査は、平成 26 年 8 月末から 9 月にかけて、市内 20 歳以上の 3121 名の市民に対して、無作為で郵送にて調査を行った。

(委員)

重点的に取り組むべき施策の回答形式はどのようなものか。

(説明員)

この設問は、複数回答のものである。

(委員)

複数回答であれば、いわば当たり前の回答結果となる。実際の問題意識を把握するという意味で参考になるかどうかは疑問である。

(委員)

このアンケートは、ランドブレインが作成したものか。

(説明員)

調査票等の案を作成し、事務局と調整を行った。

(委員)

設問そのものとして、どういうニュアンスで尋ねたものなのか。現状で足りないものを補うようなことを意図していたのか。

(説明員)

現状で足りないから、そこに力を入れるという聞き方ではない。

(委員)

大前提として、この10年間で現状にあるものを伸ばしていくべきということなのか、新しいことを試みていくべきということなのか。

(委員)

高齢者の中には、元気な方もいれば、寝たきりの方もいる。その意味で、高齢者が多く居住している地域の方々は、防犯や防災について危機意識をもって、様々な取り組みをされている。このように、地域によって意識には差があるのではないかと。

(委員)

他市で集合住宅の空き家を市がリフォームして、大学生に住んでもらうという事例を耳にした。このように、10年後にどのような状態になることが予想されるからこれから何をすべきか、という考え方をすべきではないかと。

(委員)

志木市は、居住年数や居住地域、居住者の年代等で、問題に違いがある。そのことを踏まえて、様々な意見を出し合っていくべきではないかと。

(委員)

10年先を考える方法として、現状分析をしてそれに対してどのような対策を講じるかを考えるという一般的な方法と、10年先はこうありたいという理想を設定する方法の2つがある。この審議会においては、どちらの考え方を取るのかについてコンセンサスを形成するべきではないかと。

(委員)

問題を絞ってもよいのではないかと。

(委員)

まちづくりとして、どのようなまちを目指していくのかを選択する必要があるのではないかと。例えば、志木市は水害の歴史が多い。近年は、東日本大震災の影響があり、地震対策といったことが優先されてきているが、この一級河川が3本も流れている地域性を踏まえた選択を考えるべきではないかと。

(委員)

病院に関する項目はどこになるのか。

(説明員)

「市民を支える快適なまちづくり」の中にある「健康に暮らせるまちづくり」として、「医療・福祉ネットワークや救急医療の充実」というところに位置付

けられている。

(委員)

このビジョンの記述の中に、あいまいな表現が目立つ。それらを明確にするという意味で、しっかりと基礎を固めていくべきではないか。

(委員)

どのようなまちづくりを選択し、いかに志木市らしさを追求していくかが、10年先を描くために必要ではないか。

(委員)

ビジョンで掲げられている施策と、実際に市民が必要としている施策が合っているのか。このビジョンを実行することで、どのような変化が生まれるだろうか。

(委員)

志木市は、人口についてそこまで変化しない予測となっているが、その予測をどのように受け止めるか。

(委員)

人口を維持できるとして、その内実をどうしていくのが課題である。魅力がある場所に人は集まるわけだから、市民一人ひとりの力としての「市民力」を結集していくべきではないか。志木市には、チャンスがたくさんある。

#### 4 その他

- ・志木市将来ビジョンに関する意見シートの提出に関する連絡
- ・次回日程に関する連絡

#### 5 閉会